

平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書

概 要

平成17年 6月

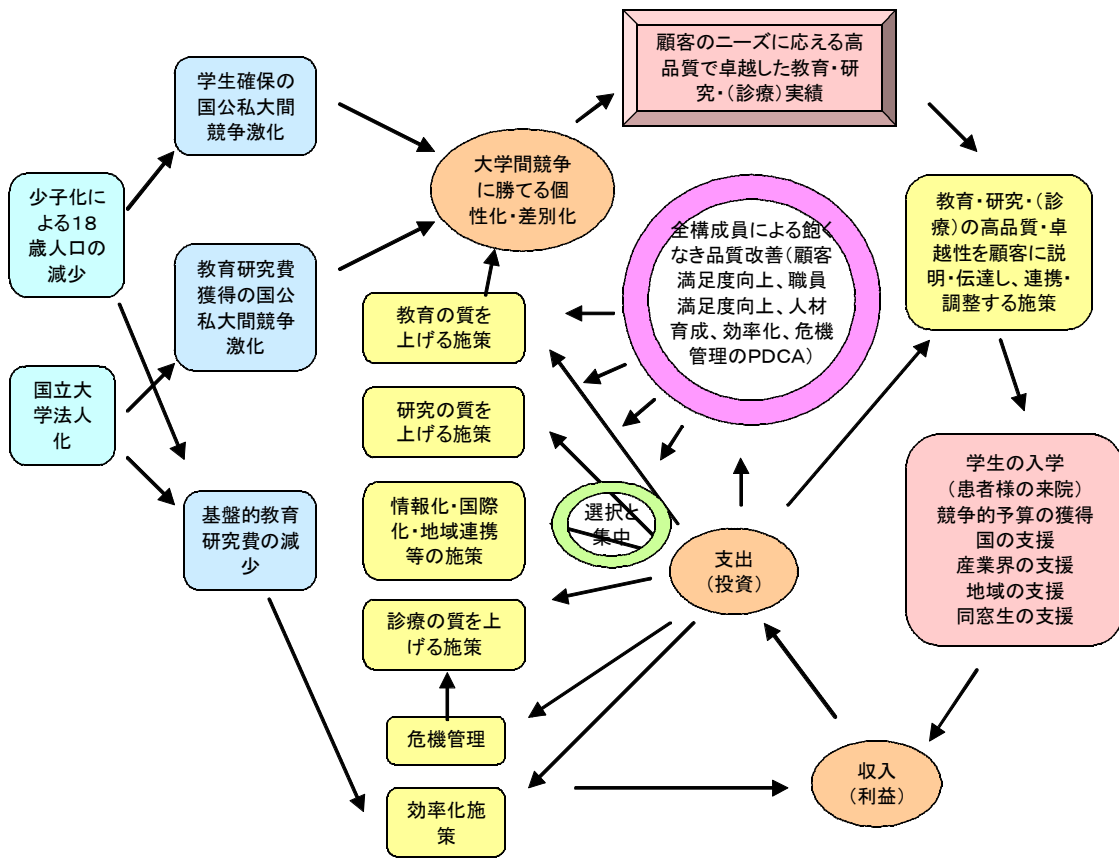
国立大学法人 三重大学

平成16年度実績と三重大学の目指す経営方針

1. 三重大学のミッション

三重から世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～

2. 三重大学の目指す経営方針



- 5つのC : client, communication, challenge, commitment, collaboration
- 16年度は上記経営方針を実行するための基礎的な体制整備の年

3. 学長のリーダーシップの確立と柔軟な資源配分の実施

(1) 学長裁量の予算の確保

- ① 平成16年度学長裁量予算 237 百万円を確保、三重大学COEプロジェクト、三重大学教育GP等戦略的競争的に配分。今後増額を図る。

(2) 戦略的・効果的な人的資源の活用

- ① 平成17年度人員・人件費管理計画を策定し、各学部教員定員の97%の範囲内で運用を図り、部分的に人件費・物件費総額管理の裁量を賦与。現在、大学院創設等の教育研究組織の再編成を提案し、18年度以降の各学部の運用案を検討中。
- ② 上記の結果得られた学長裁量の人件費により、高等教育創造開発センター、知的財産統括室等の全学ポストに教員を戦略的に配置
- ③ 戦略的ポストの一部は任期制を導入
- ④ 事務組織の一元化（財務関係事務他）を図るとともに、図書・情報部を改組して学術情報部への再編、4部で4課の廃止・統合を決定し、社会連携課を新設して民間から課長を登用

(3) 執行体制の整備

- ① 5人の理事のもとに、総務・企画・評価機構、財務・経営機構、教育機構、研究機構、情報・国際交流機構の5つの機構を設置し、各機構委員会を設置、その下に全学センター、全学委員会および事務組織を配置する執行体制。
- ② 附属病院長を理事待遇とし、人件費・物件費総額管理の裁量を与え、学長を議長とする病院経営戦略会議を設置
- ③ 各担当理事の責任の明確化と四半期毎の達成状況の役員会等への報告

(4) 学長と構成員とのコミュニケーション促進

- ① 公式・非公式の頻繁な部局との連絡・調整
- ② 学長サロン開設（17年7月）
- ③ 学長メッセージの配信（17年7月）

4. 経営体制の確立と業務運営の効率化

(1) 一般管理費の節減

- ① コスト（経費）削減アクションプログラムを策定
- ② 平成16年度実績（前年度比）
 - ・ 水道光熱費 4,644 千円減（4%減）
 - ・ 印刷製本費 15,131 千円減（31%減）

- ・ 通信運搬費 2,339 千円減(12%減)
- ・ 定期刊行物 1,239 千円減(10%減)

(2) 事務業務の見直しと合理化

- ① 事務組織等検討委員会を設置
- ② 平成17年度一般事務職員2%削減を決定。今後も削減を継続。
- ③ 外部コンサルタント等の意見を参考に事務業務の見直し予定

(3) 危機管理体制の整備

- ① 危機管理プロジェクトチーム、三重大学危機管理委員会を設置、「学生向け防災ガイドー生き残るためにー」を作成

(4) 施設マネジメント体制の整備

- ① 学長を議長とする施設委員会設置
- ② 施設点検・巡視グループによる点検・巡視の実施
 - ・ 点検結果等により決定した優先順位に基づく各種工事の実施
 - ・ 全学部の諸室の利用状況等の調査、講義室の集約化等の提案
- ③ ISO14001取得に向け準備開始

(5) 外部資金等自己収入の獲得努力

- ① 平成16年度実績（前年度比）
 - ・ 共同研究 2億円増（11%増）
 - ・ 受託研究 5.8億円増（115%増）
 - ・ 奨学寄附金 6.5億円増（8%増）
- ② 三重大学振興基金設立に向けて準備中

(6) PDCAサイクルの確立を目指す経営改革の推進

- ① 「中期目標・中期計画」の確実な実現を図るため、経営協議会の外部委員の指摘に基づき、「具体的達成目標及び工程表」を作成
- ② 年度計画の達成状況を数値的(%表示)に把握し、経営協議会等に報告
- ③ 「目標チャレンジ活動」の導入
 - ・ 職員については、職場単位などをベースにした少人数グループで、その自発的な創意に基づき業務改善活動を行い、その成果を全学に普及
- ④ 教職員の評価
 - ・ 教育職員の活動評価を行うため「教員個人評価の基本方針」策定
 - ・ 幹部職員の目標達成度評価開始

(7) 監査機能の充実

- ① 監査室設置、監査計画策定

5. 教育の質を向上する施策

- (1) 「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」実現のための新たな教育方法の導入
 - ① e-learning を駆使した PBL チュートリアル教育の全学的展開
16年度は調査研究のため7名を海外派遣
 - ② TOEIC に基づく実践英語教育開始
 - ③ 知的財産教育の全学的展開（現代GP採択）
 - ④ 診療参加型臨床実習の展開（教育GP採択）
- (2) 教育の質を向上するPDCA
 - ① 全学統一的な学生の教育満足度調査、卒業生や受け入れ先企業による教育評価の実施、学長による学生とのインタビュー実施
 - ② 「感じる力」「考える力」「生きる力」及び「コミュニケーション力」に関する本学独自の評価方法の開発着手
 - ③ 三重大学教育GP公募（6件採択）
- (3) 教育活動を推進する組織の整備
 - ① 共通教育センターの設置
 - ② 高等教育創造開発センターの設置（17年4月）
 - ③ 学生総合支援センター設置準備

6. 研究の質を向上する施策

- (1) 三重大学COE：一部に世界拠点形成を目指す（2件）。配分予算は5年間、人件費にも使用可。
 - ・ 「炎症性血管病変による臓器障害機構の解明とその修復再生治療法の開発」
 - ・ 「未来エネルギー・コミュニティーの成立工学：自然由来資源活用の自立分散発電システム」
- (2) その他の学内競争的研究費
 - ① 学部として育てたい国内トップレベルの研究（2件）
 - ② 学部として育てたい若手研究（2件）
 - ③ 学部より推薦のあった研究プロジェクト（9件）
 - ④ 平成17年度は若手の競争的研究予算を追加・増額（10件）

7. 地域連携施策

- ① メディカルバレープロジェクト、治験ネットワーク充実
- ② 都市エリア産学官連携促進事業「次世代ディスプレイ用新機能材料の開発とその応用機器の創製」
- ③ 地域結集型共同研究事業「閉鎖性海域における環境創生プロジェクト」
- ④ 地域再生支援事業「東紀州地域再生、観光地地震防災、地域医療再生」
- ⑤ 地方自治体との相互友好協定：尾鷲市、上野市（現伊賀市）、四日市市、亀山市、鳥羽市、朝日町、志摩市、教育学部—津市、他
- ⑥ 四日市市、伊賀市で研究室の一部機能を展開することを準備中
- ⑦ 和歌山大学と連携協定締結→紀伊半島全域の地域社会振興、環境、防災等の共同研究準備中
- ⑧ 図書館主催の地域防災シンポジウム開催

8. 国際化・情報化施策等

- (1) 3大学ジョイントセミナー（三重大、チェンマイ大、江蘇大を初め 15 大学）
- (2) APAN（Asia Pacific Advanced Network）国際会議への積極的参加
- (3) 北部タイの省農薬 J I C A プロジェクトの展開
- (4) 国際交流センター設置準備
- (5) 電子ジャーナル予算の一元化管理及び学内自助努力による大学内ネットワークの外部接続速度を 1 0 0 Mビットに向上
- (6) 附属図書館と総合情報処理センターを統合する総合情報メディア館構築の準備

9. 診療の質を向上する施策

- (1) 高度医療に適した病院再開発計画の策定
- (2) 病院機能評価受診
- (3) 5 S 運動（整理、整頓、清潔、清掃、スマイル）

10. 教育・研究・（診療）の高品質・卓越性を顧客に伝達・説明し、連携・調

整する施策

(1) 産官学連携体制の充実

- ① 創造開発研究センター設置、キャンパスインキュベータ設置
 - ・ HP上での研究者の研究内容紹介
- ② 知的財産統括室設置
- ③ 企業等との包括協定締結（17年5月）
- ④ 寄付講座設置

(2) 広報戦略の充実

- ① HP改訂
- ② 国立大学のイメージを一新する地域住民を対象とする広報誌発刊
- ③ 入試広報、高大連携、出前授業等の高校への広報活動充実

(3) 情報公開

- ① 自己点検・評価報告書、外部評価報告書、入試ミス、医療事故等を含め、原則的に個人情報に関する事項以外は積極的に公開するという姿勢で実施。グレーゾーンは学長が直接判断。